

第 15 回 BELCA 賞決定

BELCAでは、このたび第15回BELCA賞の表彰物件（10物件）を以下の通り決定いたしましたのでお知らせいたします。

なお、表彰式は来る平成18年5月16日(火)16時より、東京都中央区日本橋蛸殻町のロイヤルパークホテルにて開催いたします。

第 15 回 BELCA 賞表彰物件

ロングライフ部門

	物件名	所在地	竣工年	用途	所有者	設計者	施工者	維持管理者
1	市政会館	東京都千代田区	1929	事務室	(財)東京市政調査会	佐藤 功一	清水建設(株)	(財)東京市政調査会
2	ダヴィンチ銀座 (旧リッカー会館)	東京都中央区	1963	事務所、店舗	モルガン信託銀行(株) (株)イル・カヴァーロ	鹿島建設(株)	鹿島建設(株)	ユースネックス(株)
3	名古屋商工会議所	名古屋市中区	1967	会議所	名古屋商工会議所	(株)日建設計	(株)竹中工務店 (株)大林組	名鉄ビルディング 管理(株)
4	リーガロイヤル ホテル	大阪市北区	ウエスト ウイング 1965 タワー ウイング 1973	ホテル	(株)ロイヤルホテル	吉田五十八研究室 (株)竹中工務店	(株)竹中工務店	(株)ロイヤルホテル

ベストリフォーム部門

	物件名	所在地	竣工年	改修年	用途 改修前	改修後	所有者	改修設計者	改修施工者
1	旧第四銀行 住吉町支店	新潟県 新潟市	1927	2004	銀行	博物館(レストラン・ 展示室 会議室)	新潟市	(株)松田平田設計	清水建設(株)、(株)高健組 (株)近藤組、第一電設工業(株) (株)新潟日立、新冷工業(株) 北陸ガス(株)、三菱電機(株)
2	国立国会図書館 国際子ども図書館	東京都 台東区	1906～ 1929	2002	図書館 (国会図書館 支部)	図書館 (子ども図書館)	国立国会図書館 国土交通省関東地方 整備局管轄部	安藤忠雄建築研究所 (株)日建設計	(株)鴻池組、(株)エアテック (株)ダイキンアプライドシステムズ (株)小泉住産 中央エレベータ工業(株)
3	東京大学 赤門総合研究棟	東京都 文京区	1965	2003	大学	大学	国立大学法人 東京大学	東京大学施設部 香山壽夫建築研究所 (株)佐藤総合計画 (株)日本エアコンセン ター	大成建設(株) オーバーシーズ・バクテル・ インコーポレーテッド 振興電気(株)、第一工業(株) (株)日立製作所
4	新潟日報社 ニュースセンター	新潟県 新潟市	1992	2004	新聞印刷 工場 発送梱包 室	事務室 会議室 CPU室 休憩室 食堂	(株)新潟日報社	清水建設一級建築士 事務所	清水建設(株) (株)福田組
5	一橋大学 兼松講堂	東京都 国立市	1927	2004	講堂	講堂	国立大学法人 一橋大学	(株)三菱地所設計	(株)竹中工務店
6	横浜郵船ビル	横浜市 中区	1936	2003	事務所	博物館・ 事務所	日本郵船(株)	郵船不動産(株)一級建 築士事務所	(株)大林組

(物件名の五十音順)

BELCA賞の概要

BELCA賞は、適切な維持保全を実施したり、優れた改修を実施した既存の建築物のうち、特に優秀なものの関係者をロングライフ、ベストリフォームの2部門により表彰し、もって良好な建築ストックの形成に寄与することを目的に設けられた、我が国初の既存建築物の総合的表彰制度です。

BELCA賞は平成3年に創設され、今回の表彰が15回目となります。

受賞者には(社)建築・設備維持保全推進協会会長より表彰状が贈られ、また建物所有者に対しては、文化勲章受章者・文化功労者の彫金作家帖佐美行氏（故人）の手による賞牌が贈呈されます。

表彰の種類として、ロングライフ部門とベストリフォーム部門の2部門が設けられています。

ロングライフ部門は、建築物のロングライフを考慮した適切な設計のもとに建設され、長年にわたり適切な維持保全が実施され、建築後30年以上（第14回まで20年以上）経過した建築物のうち特に優秀なものを表彰するものであり、ベストリフォーム部門は最近改修され、その改修により画期的な活性化が図られ、改修後1年以上を経過した建築物のうち特に優秀なものを表彰するものです。

なお、受賞者はロングライフ部門については、建物所有者、設計者、施工者、維持管理者の四者であり、ベストリフォーム部門については建物所有者、（改修に際しての）設計者、（改修に際しての）施工者の三者です。

また、過去の主な受賞物件と今回の表彰物件まで含めた受賞数は以下の通りです。

ロングライフ部門・・・世界平和記念聖堂、三井本館、服部時計店、国立劇場、日本生命日比谷ビル
在日米国大使館大使公邸、経団連会館、伊予銀行本店、丸石ビルディング
立教学院諸聖徒礼拝堂、日清製粉株式会社鶴見工場工場本館
世界貿易センタービルディング、三越本店本館 等72物件

ベストリフォーム部門・・・大阪マーチャングイズ・マートビル、南座、霞ヶ関ビル、神戸郵船ビル
水の科学博物館、横浜市大倉山記念館、品川女子学院
聖路加国際病院1号館・トイスラーハウス、大和銀行虎ノ門ビル
ピーエス株式会社オレンジュリ、横浜赤レンガ倉庫
横浜情報文化センター・横浜都市発展記念館・横浜ユーラシア文化館
等74物件

第15回BELCA賞選考委員会（順不同・敬称略）

委員長	内田 祥哉	（東京大学名誉教授）
副委員長	三井所 清典	（芝浦工業大学工学部建設系建築学科教授）
副委員長	鎌田 元康	（東京大学大学院工学系研究科教授）
委員	上村 英彦	（㈱きんでん 取締役技術本部長）
〃	碓氷 辰男	（東京建物㈱ 取締役技術サービス部長）
〃	大越 俊男	（㈱日本設計 技術顧問）
〃	野口 忠彦	（㈱大林組 常務執行役員東京建築事業部副事業部長）
〃	畑本 忠幸	（日本管財㈱ ベストシステムズ推進本部長）
〃	山田 博	（東洋熱工業㈱ 取締役技術統轄本部副本部長）
〃	龍門 達夫	（㈱I N A新建築研究所 常務取締役技術管理本部長）
〃	割田 正雄	（清水建設㈱ 執行役員設計本部長）

第15回BELCA賞選考総評

BELCA賞選考委員会委員長 内田 祥哉

BELCA賞は、良好な建築ストック、つまり社会の中で生き生きと活用される建築の形成に寄与することを目的に設けられた賞である。周到な長期計画で安定した維持保全を継続しているものをロングライフ、巧みな改修によって建物を蘇生させたものをベストリフォームとし、二部門に分けて表彰している。平成3年から前回まで14回、合わせて136件の表彰件数に達するが、地球環境問題などを背景に、建築物の長期利用の気運が高まり、BELCA賞への関心は年々高まりつつある。

ロングライフ部門の応募要件は従来、新築後「20年以上」とされていたが、今回から「30年以上」に延長された。これは、建築物の長寿化への認識が高まり、現存する建築物の平均寿命も延びているので、より高度な物件を表彰しようとの判断によるものである。

また近年社会の変容に伴い、要求性能の変化が技術革新を進め、主要な外観や内装を保存するロングライフ部門といえども、ベストリフォームに劣らぬ改造で、現代社会に必要な機能を獲得するものが多い。この状況を捉え、第11回の選考よりは、ロングライフとベストリフォームの区別にこだわらないで、合計10件以内を選ぶことになった。以来、第14回までは偶然各部門5件となっていたが、今回は、ロングライフ部門4件、ベストリフォーム部門6件を表彰することとなった。

今回のロングライフ部門の表彰は、事務所2件、会議所1件、そしてホテル1件となった。新築後70年を超える東京都心の事務所ビル、最近オーナーが代わり外観を復元する一方、機能を一新して生まれ変わった都心の事務所、名古屋の経済界を代表する会議所、そして大阪の老舗ホテルである。ロングライフ部門は、東京を中心とした大都市の受賞が多いが、今回も3大都市の建築が受賞することとなった。いずれも、関係者が不断の努力を続けてこられた成果で、いずれも風雪と共に様々なドラマを蓄えている。

ベストリフォーム部門では、博物館、図書館、大学、事務所、講堂などと幅広い用途の建築が選ばれた。これらは、建設当初のままでは時代の変化に遅れるとして、設備・機能を一新するリフォームと共に、必要な耐震補強に様々な工法が取り入れられているものが多い。また「コンバージョン」への関心が高い一方で、用途変更のない建築が多いのも最近の特徴である。

本年もこれまで同様応募物件の半数は東京をはじめとする大都市の建築であり、新しい地域からの受賞がなかった。従って、未だ、BELCA賞の行き届かない県が18県も残されている。「良好な建築ストック」の見本が各地で手近に見られるためにも、一日も早くBELCA賞が総ての都道府県に行き渡ることを期待したい。

今回表彰される物件が、我が国の優良な建築ストックの形成に寄与すること確信し、受賞物件の関係者に対して深い敬意を表したい。

第15回BELCA賞ロングライフ部門選考講評

BELCA賞選考委員会副委員長 鎌田 元康

第15回BELCA賞ロングライフ部門は、今回から応募条件が“竣工後30年以上を経過したもの”に変更された。この変更に伴い、応募件数が激減するのではと危惧していたが、減少はわずかに止まり、例年どおり全国から、優れた維持保全を行い、現在でも有効に活用している物件の応募をいただいた。1次の書類審査を通過した建物に対し、2次の現地審査を行い、厳正な審査の結果、残念ながら昨年より1件減ったものの、以下の4物件がBELCA賞ロングライフ部門の表彰物件として選定された。

「市政会館」(1929年竣工)は、懸賞コンペで選ばれ、1923年の関東大震災直後に設計され、1925年に着工した建物である。十分な耐震性が求められたことから、松杭2,200本を用いた地盤改良が行われ、耐震壁を多用した鉄骨鉄筋コンクリート造で建築され、75年後の現在でも、ひび割れが無く、不同沈下も見られない。本建物は、近代ゴシック様式の重圧で優美な外観を誇るが、アクセントとなっているテラコッタタイルの補修と外装のスクラッチタイルの補修などに、特に苦勞が感じられる。内部は、創建時の格調ある雰囲気を残すよう、当時の仕上げをできるだけ残す工夫をしている。設備面では、時代のニーズに合わせて追加されてきた各種設備の更新時に、外壁に設置されていた各種配管や屋外機などを撤去し、建設当時の外観に還元するとともに、会館のシンボルである時計のイメージを損なわない形での最新型への更新、テナントビルとしての空調負荷対応、事務所照度750lxへの改良、光ケーブルの引き込みなどを行っている。テナントの会社数が増加するなど、管理面での苦勞が増えていると思われるが、100年建築を目指しての、長期保全計画などが高く評価された。

「ダヴィンチ銀座(旧リッカー会館)」(1963年竣工)は、リッカーミシン本社ビルとして建設され、日本建築学会賞を受賞している。その後所有者がダイエー、現在の所有者と替わっている。ビルの正面が西を向いていることから、西日を遮断し、しかも内部からの眺望を確保する目的で、通常のサッシとは別に、バルコニーの外側にグレーパンのガラスで覆われたアウトースキンがついており、現在でいう環境配慮建築のダブルスキンの先駆けとなった建物といえる。このバルコニー部分に、冷房負荷増大に対処するための空調用屋外機が設置され、建設当初のスッキリとした外観を台無しにしていた点を、空調設備の熱源集中エアハンドリングユニット方式から、ビル用マルチを用いた天井隠蔽型ヒートポンプパッケージユニット方式への改修時に解消するとともに、地階熱源機器、各階空調機、さらには地階受変電設備を屋上へ移し、貸室面積を増やしている。また、耐震改修においても、構造スリットの新設、壁の増し打ち補強ばかりでなく、柱、梁に対してハイブリッド補強工法を採用し、フレーム全体の耐力と粘り強さを向上させ、外観を損なうことなく耐震性能を確保している。これらの改修および適切な水回り設備の改修、さらにはアスベストの完全除去など、テナントビルとしての魅力を損なわない努力が評価された。

「名古屋商工会議所」(1967年竣工)は、名古屋での日米市長・会議所会頭会議開催を機に建て替えられた建物である。1961年に制定された特定街区の基準を利用し、周辺環境との調和に配慮された41mの高層ビルとして計画され、平面プランはセンターコア形式で、基準階の奥行14.4mのフレキシビリティに富んだオフィス空間を持ち、バランスよく配置された耐震壁により耐震安全性も高く、熱源負荷低減にも配慮されている。高効率な熱源機器への更新、小区画制御も可能な空調方式への変更、変電設備更新、給排水管更新、OA専用電源の新設など、既存設備を活かしながら、省エネルギーも考慮した計画的で無理のない改修を行っている。維持管理において、所有者の維持管理部門を中心に、設計事務所、施工会社、管理会社が一体となって取り組んでおり、長期のテナントが極めて多いことなどが高く評価された。

「リーガロイヤルホテル」は、今回の表彰対象である1965年竣工のウエストウイング、1973年竣工のタワーウイングに加え、その後に建設されたその他の建物により構成されている。ロビー、宴会場は建築家吉田五十八の監修による日本的な伝統美を表現した構成をとっており、バーナードリーチの着想を吉田五十八により具現化されたリーチバーなどはホテルのシンボルとして大事に維持保全が図られており、40年以上経過してもそのデザインの持つ魅力を失っていない。ホテルの魅力を失わせないための客室、レストランの模様替えを順次行っているのは当然として、外壁タイルのネットバリアー工法による改修計画など、安全面への配慮もなされている。また、計画的な給水管の交換や、省エネルギーに配慮し、CO₂排出削減を目指した設備関係の維持保全水準も極めて高い。「関西の迎賓館」としての地位を不動なものにしようというオーナーの意志のもと、設計者、施工者、維持管理者が緊密な連携をとり、改修および維持保全に取り組んでいる点が高い評価を受けた。

第15回BELCA賞ベストリフォーム部門選考講評

BELCA賞選考委員会副委員長 三井所 清典

第15回BELCA賞ベストリフォーム部門には、多数の応募があり、書類審査による1次選考から激戦となった。さらにこの部門はリフォームの概念が広く、内容が多様で選考には苦慮するところが多かった。建物の用途が変り、内装も外観も一新されて、まるで新築建物と思えるものから、用途も変わらず、内外装も殆んど従前通りで、一見しただけでは良く保全されている建物と思えるものまでさまざまなリフォームがある。

今回の表彰物件では、東京大学赤門総合研究棟と新潟日報社ニュースセンターが一新されたリフォーム型で、旧第四銀行住吉町支店、国立国会図書館国際子ども図書館及び横浜郵船ビルは主用途の変更はあるものの建物としては保全型で、一橋大学兼松講堂は主用途変えない保全型である。もちろん保全型といっても現代の使い手が快適と思うレベルまで検討を重ねて忠実な手を加えることは容易なことではなく、優れたリフォームであることには違いない。

「旧第四銀行住吉町支店」(1927年竣工、2004年改修)は都市計画道路の整備のため除去されることになった建築を、市民の熱心な保存運動が契機となって新潟市が移築保存した建物である。移築に際し、外装の石材や内装の造作材を位置や寸法も従前通りそっくり移築されている。天井や壁上部の漆喰や石膏彫刻も切断して運び、下地の耐火処理の上、もとの位置に正確に取り付けられ、風除室やカウンターなど非耐力壁の一部は、仕上の大理石をコンクリートと一体のまま切りとって移し、復元している。なお外装の石材は仕上材で、内外装材の間に新たな構造体となる現場打ちの鉄筋コンクリートが形成されている。このような忠実性を踏まえた復元の工夫と努力が建築の文化財としての価値を高めており評価されるものである。

「国立国会図書館国際子ども図書館」(1906年1期、1929年2期竣工、2002年改修)は旧帝国図書館として久留正造らによって設計された□字型の東翼が着工されて実現したが残りは中断されていた。そして戦後、増築が断念された建築であり、今回の改修にあたって、ルネッサンス様式といわれる創建当時のデザインを内外装とも極力保存することを前提に、新しい国際子ども図書館に用途変えたものである。床や家具に空調を仕込むとか、内壁廻りの床や中庭の増築部の外壁に透明ガラスを利用して創建当時のデザインを保存して見せるための工夫が凝らされている。また地下階に投入されたレトロフィット免震工法によって上部本体を効果的に保存するなど歴史的建造物の価値を保つリフォームとして優れている。

「東京大学赤門総合研究棟」(1965年竣工、2003年改修)は竣工時は特徴のない平凡な建物であったが、東京大学のシンボルである赤門に最も近く、ネオゴシック様式といわれる図書館や医学部本館に近いという立地を配慮して、今回耐震補強の機会を捉えて北側銀杏並木側のファサードの意匠を意識した現代的手法のデザインで改修した優れたリフォームである。また南面の耐震補強も四角のスチール枠を柱梁の躯体の内側に接着工法で嵌め込むデザインも優れている。内部は既存の雑壁を撤去してフレキシビリティの高い大きな空間を確保し、可動間仕切を用いて研究室や会議室、あるいはゼミナール室を創りだしているが、これらは将来の変容性も示唆するものであり、教育・研究棟として適切なリフォームである。

「新潟日報社ニュースセンター」(1992年竣工、2004年改修)は新築後間もない印刷工場棟を、施設拡充のため社内のさまざまな協議を重ねて、編集・製作局を中心とするオフィス業務を行うニュースセンターに変身させたものである。外観も新しい印刷センターと調和するよう最上階の4階の外壁を黒に、3階以下を白とするツートンの引締まった一体的な装いとなっている。苦勞して実現した前の印刷工場に愛着をもつ社の人々が、取り壊し撤去を選択せず、苦勞の多いリフォームを選ばれたと聞いているが、そうした建物は今後も大切に使われるであろう。

「一橋大学兼松講堂」(1927年竣工、2004年改修)は伊東忠太の設計によるロマネスク様式の建築で、大学のシンボルである。今回の改修は、ほぼ80年振りに同窓生の寄付による資金によってリニューアルが実現した。原設計のデザイン、内外部の仕上を大切にしながら、座席の幅を広げ、空調、照明、音響の質をあげるなど補修工事によって快適な空間に整備・保全したリフォームである。現在は殆んど毎日学生達が活用する空間に変わった。外壁のスクラッチタイルやテラコッタの欠損部の補充も忠実な復元をめざして部品をつくり、成功している。

「横浜郵船ビル」(1936年竣工、2003年改修)は横浜の近代化文化遺産といわれる建築が集中している地区にあり、保存的リフォームである。特に外観は16本のコリント式の列柱を有する堂々たるもので、この格調を保全するようアルミサッシをスチールサッシに戻したり、ウインドクーラーを全て外す改修を実行している。内部は1階を博物館の展示室に用途変えているが、天井やカウンター、あるいは照明器具など忠実な復元に努めている。2階から4階はテナント用オフィス空間にリフォームしているが、1階のテナント専用玄関やエレベーターの新設も違和感なくスムーズに納まっている。